

今までの授業

- ①ICTを活用し、基本的な用語や知識を正確に理解できるようにしている。
- ①問題集や小テスト等を利用して、繰り返し学習をさせ、基礎的な知識の定着を図っている。
- ②思考力や読み解く力の習得のため、観察・実験の結果から考察する時間の確保、教え合い活動や対話の機会を設定している。
- ③探究的な課題を設定し、生徒に話し合わせたり、調べたりすることで、個人の学びに向かう機会を設けている。

今回の調査結果

- 1 年生
定期テストの得点が比較的良い。また、実験や実習などでは積極性がある。
- 2 年生
定期テストの結果より、知識・技能の項目に比べて思考・判断・表現の項目の得点率が低かった。
- 3 年生
定期テストの結果から、「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の観点の問題の得点率が低かった。また授業アンケートより「先生の言葉による指示の明確さ」の項目が他の項目よりも「そう思う」の回答が少なかった。

課題

- 1 年生
覚える作業が得意な反面、既存の知識を用い、新たな課題に取り組むことが苦手である。
- 2 年生
課題の取り組み方に問題がある。継続的に反復練習するというのが少ない。1 度覚えたことも何度も復習が必要がある。
- 3 年生
定期テスト・学力調査の結果から、論理的・批判的な思考力に関する問題の正答率に課題を残している。授業評価では肯定的な意見の合計は 90%をこえているが、「そう思う」の割合が約 6 0 %にとどまっている。

授業改善の具体的な方策

第 1 学年

【授業を改善すること】

- ①実験などを多く取り入れ、体験的に学べる時間を多く確保する。
- ②実験から学んだことを「活用」する機会を設ける。
- ③問題演習を單元ごとに行い、内容の理解を深める時間を設ける。

第 2 学年

【授業を改善すること】

- ①前時の授業を振り返る時間を設ける。
- ②思考・判断・表現の育成のため、課題の性質によって、個人で考える時間、調べる時間、話し合いの時間、全体での発表の時間など活動方法を精選する。
- ③単元の終わりでは、演習の時間などを設け、学んだ知識を活用する場面を設ける。

第 3 学年

【授業を改善すること】

- ① 授業中の指示・発問の言葉を工夫し、明確な指示や説明に努めると共に、小テストなどで理解を確かめながら授業を行う。
- ② 思考・判断・表現の育成のため、探究的な課題を設定し、観察・実験計画を生徒に話し合わせたり、立案させたりすることで、生徒の思考力・表現力を養成する。
- ③ 学習内容と社会的課題を結び付けてテーマを設定し、自らの問いを持ち、探究を行う機会を設ける。